

ウーマンキャンピネットによる模範市議会

大分市女性市議会事後研修会報告

～長崎市女性議会の皆さんに学ぶ～

大分市女性市議会模範議員
田 辺 薫

大分市女性市議会開催後、そのまま終わらせてしまうのではなく、更に勉強の機会を作ってはどうかということで、先進地長崎市での研修会（模範議員12人と女性政策推進室長参加）が行われました。



■「アマランス」

お天気にも恵まれ、快適なバスの旅。女性議会本番に至るまで様々な勉強を重ねて来たメンバーだけに、きこちなさは全くありません。バスから路面電車に乗り換えて、長崎市男女共同参画推進センター「アマランス」へ。

【愛称アマランスの由来】

愛称となつている「アマランス」とは、ギリシャ語の不死花、常花という意味。アマランスが永遠にあざやかな赤色の花をつけ咲きつづけることから、一人ひとりが生き生きと活動したいという願いが込められています。

■長崎女性団体ネットワーク

午後3時半から、アマランスの会議室にて長崎の皆さんと意見交換会。お忙しい中、長崎市男女共同参画室長・係長と、長崎市女性議会開催実行委員及び一日議員から12人の皆さんが、出迎えてくださいました。

「長崎女性団体ネットワーク」は、文部省から「女性の社会参加支援特別推進事業」の委託を受け、平成7年2月に発足。

「女性の生き生きとした社会参加」をテーマに、複数の専門部で構成され、発足当初は150もの団体が活動していたそうですが、考え方の違いが原因で、団体数は減少しているという難しい現実もあるようです。

■長崎と大分の違い

大分市女性市議会は、議会や市政を体験し、女性の視点と感性を大分市のまちづくりに生かすという趣旨で開催されました。よって、議会で質問された内容に対する答弁は、大分市として公式なものでした。

一方、第1回長崎市女性議会は、「ながさき男女共同参画都市宣言」（平成11年9月）の一周年記念事業として開催。「行政が女性の声を聴く」というイベント性が強かったために、本当に市政に生かすためにも市民主導で改めて女性議会を開催したいという声が女性議員の皆さんから上がったようです。その思いは、「長崎市女性議会実行委員会」として最初の実を結びます。

■第2回長崎市女性議会

企画・調整・運営について、模範議員の公募・決定から議事録作成まで、全て実行委員会でを行います。第1回の時とは全く性格の異なる第2回長崎市女性議会（平成14年10月）

が現実のものとなるまでには、実行委員の皆さんの並々ならぬ意欲と、努力があったことでしょう。

■市民一人ひとりの力

活動を重ねていくうちに、模範議員の枠にとどまらず、実際に国・県・町の選挙へ立候補する方まで出てきたとのこと。大分市女性市議会閉会時にも「この中から本場の議員が」との話は出ていましたが、実際に選挙に出るといってお話しを先輩である長崎の皆さんから伺ったときには、一同感嘆の声を挙げました。「私が」という主語が明確なこと、「させられていく」という受け身ではなく能動的に前に進む意志がはつきりしているということが、活動の基本姿勢ではないかと感じられ、積極的な参画姿勢に背筋の伸びる思いがしました。アマランスでは、講師を招いての勉強会を数多く開く一方で、施設そのものがとても利用しやすい雰囲気を感じ出しているところに大きな魅力があります。参加者の誰もが、アマランスの持つ温かさを感じたようです。

■次につなげていくために

研修会を終え、大分市女性市議会後からくすぶっている「もつと何かをしたい」という熱い声が、改めて数多く聞かれました。ネットワークに魅力を感じた参加者も多かったようです。模範市議会の経験に加え、長崎の皆さんとの交流が大いなる刺激となつて、次なる階段を登りたい思いが高まっている参加者。この思いをどういう形で具現化していくかが、次の課題ではないでしょうか。